

(公益社団法人) 日本建築家協会 関東甲信越支部 城東地域会 2023年度 講演会 《本所の近代史—都市江戸の拡大》 報告書

【日時】2023年7月22日(土)15:00~17:00

【調査地域】墨田区 本所地域

【参加者】26名

■プログラム概要

今回のイベントでは、墨田区南部のいわゆる本所地域と呼ばれる地域について、中山学氏による講演が行われました。

●まち歩き

講演会前にはミニまち歩きも開催され、北斎美術館周辺を散策してからの講演会となりました。

北斎美術館一回向院—安田庭園—刀剣博物館—横網町公園—北斎美術館のルートで行われました。

●講演会

講演者：中山学氏

中山学氏は墨田区教育委員会、地域教育支援課で文化財担当の指導員をしてらっしゃいます。



葛飾北斎 富嶽三十六景 本所立川

内容：本所地域は元来その大部分が沼沢地でしたが、江戸幕府による17世紀中期以降の本格的な干拓・造成事業を通じて現在に通ずる大規模な宅地が準備されました。本講演では、この干拓・造成事業のプロセスを確認し、現墨田区南部の都市景観がいかにして創出されたものであるのか学びました。



本所絵図 全 (国土地理院ウェブサイト)



改正 深川之内小名木川ヨリ南方一円図 (国土地理院ウェブサイト)

■本所とは

本所とは現在の墨田区の南半分にあたる地域のことで、「本所村」という村の名前が由来であり17世紀ごろには「本庄」とも呼ばれることもありました。隅田川の縁の部分は自然堤防となり人が集まっていた場所です。その他の部分は、大部分が17世紀中期以降の新開地でした。本所という名前は古くに遡った名前と考えられ、明暦江戸大絵図からは、松平綱吉や綱重の屋敷があり、武家屋敷も進出しはじめていた端境期であったことがわかります。



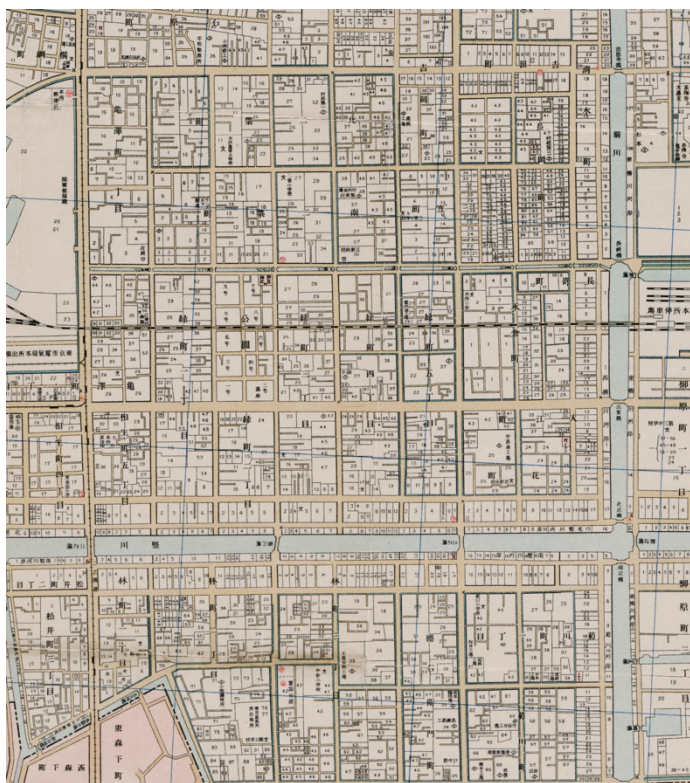
明暦江戸大絵図 (三井文庫)

■本所の開発における通説と学説

通説や学説では、本所は災害のたびに開発されてきたとされています。

通説では明暦の大火を経て新地を必要としており、本所地域を開発しましたが、水害によって一旦百姓地化し、隅田川堤防の築造後屋敷割が再開されたとされています。

一方で、学説では幕臣の増加により江戸の改編を行うとしており、しかし財政不安によって市街地化計画を中止して百姓地化したとされています。



東京市本所区（東京都立中央図書館）

■本所の開発における再検討

屋敷は旗本がほとんどで、100~300石級の旗本の屋敷が集まっていました。家督を継ぐことができない立場であり、分家として独立したての人々でした。幕臣の増加への対応、分家でありつつも本家に独立した屋敷のない旗本を独立させるため本所を開発したと考えられます。

第一次開発では短冊状に武家屋敷が割り振られ、南北の街区を形成する道は幅が広がっています。しかし百姓地化を経て、本所之絵図から第二次で再配置された屋敷は第一次とずれています。道のずれはこうい



江戸方角安見図（国立国会図書館）

った土地の操作からくるものと考えられます。第一次から第二次の間で百姓地化したプロセスを経たのは地割りのやり直しをする必要があったからです。

第二次開発では、第一次と比べて割り振り面積が減少しています。道の幅を減らして道路の数も一本増やし、街区の数と街区総面積が増加しました。時期は綱吉の将軍就職直後で、幕臣の増加があった時期です。これをまかなうため、用途地の創出と旗本の拝領坪数は家格に応じて一律化し、かつ全体的に削減しています。ゆえに年貢を得るためや災害のためではなく、幕臣の増加に対応するため再割り付けを行うための総撤退であったのではないかと考えられます。

つまり、本所という地域は武家地のために開発された場所であったのです。



本所之絵図

■ 質疑応答

講演の終わった後、参加者の方々から様々な質問をいただきました。以下はその一部です。

● 江戸への憧れ、格差が生じた理由とは？

低地を開発した新興地域のため、水が滲み出るなどで生活条件があまりよくなかったと考えられます。

● 飲み水はどうなっていたか、区割りで道をつくりかえたのはなぜか？

第一次で上水はどうしていたかは不明です。第二次では本所上水は曳舟川から引いていました。しかし享保時代に廃止されてからは道の真ん中に公的のものではない井戸があった痕跡があります。第一次開発の道を使わなかったのは、第一次ではばらつきのあった幅を第二次では規格化したかったからだと考えられます。

● 割下水について

低地だったため道から土をとってきて屋敷を高くする者もあり、再び道に土を入れる必要がありました。その際割下水に向けて勾配をつけていました。雨水や溜水などを排出するためだと考えられます。



新板江戸外絵図（東京都公文書館）

■ 講演会に参加して

今回の講演会では、本所地域の成り立ちを詳しく学ぶことができました。中山さんが当時の地図や記録を細部まで分析していくことで得られたのは、通説や学説とはいささか異なる本所の成り立ちでした。

普段人々が生活している本所という地域が一体どのようにして成立したのか、現在の風景になっていったのが紐解かれていくことで、現在の本所という場所がより奥深く重層的な場所であるように感じられました。

本所の歴史を知って、はじめは何故武家地として開発したにも関わらず一旦百姓地に戻し、さらにまた武家地に戻されたのか、不思議の多い歴史でした。ともすれば行き当たりばったりと受け取られそうなそれを考察していった結果、土地の再割り付けというきちんとした計画のもと行われたプロセスであったことがわかりました。

本所の街並みはそのような面白い歴史のもと成り立っているのだと学び、改めて本所という地域のことを捉え直すきっかけとなりました。

文責：高山（千葉大学）